関西福祉科学大学心理・教育相談センター オープンセミナー2016 (増補版) 日本版 Vineland-II 適応行動尺度の 基本的考え方と実施法およびその臨床的適用

～特に、Vineland-II 上の高機能 ASD 特性と
それに基づく余暇活動支援の観点から～

日時 2017年3月25日(土) 11:00～17:00

講師 櫻井 秀雄

(関西福祉科学大学 大学院 教授・臨床心理士)

場所

関西福祉科学大学 4号館 1階 104教室

(大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1)

- ・近鉄河内大阪線「河内国分」から徒歩15分
- ・「大阪教育大前」から徒歩15分
- ・JR関西本線「高井田」から徒歩25分

申込方法

必要事項を記載し、メールにてお申し込みください。
なお、その際「件名」に必ず「発達臨床セミナ2016申込」と明記し、「お名前・ご住所・連絡先・所属先・臨床心理士番号・駐車場の要/不要」をご記入の上、s-center@tamateyama.ac.jp (セミナ申込担当者) までご送信ください(2017年3月22日(水) 20:00迄切リ)。

参加費

一般3,000円 学生・院生2,000円

(当日、受付にて直接、承ります)

主催 関西福祉科学大学心理・教育相談センター

後援 奈良県高機能自閉症児者の会アスカ

問合せ先

s-center@tamateyama.ac.jp (セミナ申込担当者) まで

*「臨床心理士の資格更新のためのポイント(2ポイント)」申請予定

*昨年、同演題にて開催したところ、「もっと時間をかけて聞きたい」等のご希望が多かったことを受け、今回は昨年と同様の資料を用い、より事例に時間をかけ教授すると同時に、「臨床心理士の資格更新のためのポイント(2ポイント)」を申請予定である。

(内容) 発達障害児者への具体的な支援計画の策定や行政サービスの実施を考える上で、個々の支援ニーズを的確に把握することが必要となる。しかし、国内では発達障害児者の支援ニーズを客観的に把握するための基本的なツールが開発・普及されておらず、もっぱら知的機能に基づいた評価のみが行われてきた現状がある。国際的にはすでに障害程度はIQだけでなく、適応行動の観点からも評価されており、高機能ASDやADHDなど、知的能力以外の側面に障害を抱える人々への支援が充実してきている。DSM-5でも、知的発達症(従来の知的障害)の診断において、知的能力よりも社会適応の観点が重視されるようになった。しかし、日本ではまだ障害の程度についてはIQが基準となっており、特に高機能ASDにおいては、対人関係や社会性など日々の生活や行動上の適応の困難さが明らかでもIQが高いとそれらに対する支援の必要性が評価されない現状がある。

そこで、日常生活への適応に必要となる適応行動を包括的に評価するためのツールとして国際的に広く利用されているVineland-II (Sparrow et al., 1984, 2005) の日本版出版(日本文化科学社, 2014)を受け、そのアセスメントの実際とそこから見えてくる高機能ASD特性とそれに基づく余暇活動支援の実際について事例を挙げ解説する。